

## 「さんべでものづくり教室②ミニ四駆」

### 1 趣 旨

- ・家族に体験活動プログラムを提供することで、家族の絆を深めるとともに、「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。
- ・活動を通して、「ものづくり」の楽しさを体験し、科学を学び、科学への興味関心につなげる。

### 2 事業の概要

- (1) 期 日 ①令和元年 11月23日(土)～24日(日) <1泊2日>  
 ②令和2年 1月12日(日)～13日(月) <1泊2日>  
 ③令和2年 2月29日(土)～3月1日(日) <1泊2日>

※③については新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止となった。

- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家  
 (3) 協 力 HOBBY SHOP 地球堂模型  
 (4) 対 象 主として小学生とその家族 ※小学校3年生以上向き  
 (5) 参加者 ①88名(子ども44名 大人44名) 募集50名 申込187名  
 ②76名(子ども40名 大人36名) 募集50名 申込123名  
 (6) 講 師 HOBBY SHOP 地球堂模型 南條 達也 氏

#### (7) 日程・内容

1日目	13:30	14:00	14:30	16:30 17:10 17:30 19:00				20:30	22:30	
	入 所	は じ め の 会	オリエンテーション	I これがミニ四駆!! ～ミニ四駆を知り、作ってみよう～		休 憩	タ バ の こ い	夕 食 ・ 入 浴 ・ 休 憩	II 選択活動 ①ミニ四駆コース体験 ②自主活動 ・カブラ ・所内でゆっくり など	就 寝 準 備
2日目	6:30	7:00	7:40	9:00	9:30	～	11:30	11:50		
	起 床	朝の こ い	清 掃	朝食・休憩	退 所 点 検	III さんべミニ四駆カ ップで勝負!! ～ミニ四駆をもっと速 く走らせる工夫をし、 仲間と競争しよう～	お わ り の 会	解 散	退所後は… ・交流の家のプログラム体験(カブラ等) ・世界遺産石見銀山見学 ・早めに帰宅 などなどご都合に合わせてプランニング	

### 3 事業の特色

本事業は、実際にミニ四駆を作って走らせる人気事業である。事業の特色として、1日目に作ったミニ四駆を走らせる中で、2日目のレース大会に向け、どうしたら安定して速く走行できるのかを参加者自らが考える。そこで、ノーマルのミニ四駆作成後、改造パーツを配布することで、パーツの組み合わせや取り付け方の工夫により走りの違いを考え、遊びながら学ぶ楽しさを感じることができるプログラムとした。また、ミニ四駆や工具の取り扱い方、危険性について説明し、日常生活や学校生活に生かせるよう指導した。

## 4 参加者へのアンケート結果

### (1) アンケートの集計 (人)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	54	4	0	0
プログラム	54	4	0	0
運営	53	4	1	0
職員の対応	54	4	0	0
ボランティアの対応	54	4	0	0

### (2) 参加者の声

- ・子どもの考える力を身につけることのできるイベントでよかった。
- ・子どもが自分から説明を聞いたり、質問していた。
- ・夢中で改造に取り組む姿勢を見ることができ、感心した。

## 5 成果と課題

### 《成果》

- ・毎年応募多数で抽選が必要なほどの大人気事業であり、多くの家族が落選することになる。そこで、今年度は協力先と調整を行い、事業数を3回に増やし、昨年課題であった多くの方へものづくりと交流の家での体験の機会を提供することができた。
- ・ミニ四駆のコース以外は走らせず、仲良く順番に並んで試走していた。順番を待つ中で、「あと一人走れるよ!」、「次僕と一緒にやろう!」、「ミニ四駆を取ってくれてありがとう」等、参加者同士で声掛けし、ルールを守り、コミュニケーションを取る姿勢が見られた。
- ・参加者がすすんで作業中に出たごみを片づけたり、借りた道具をもとの場所に返却したりすることができ、机や床が常にキレイだった。
- ・子どもが親とミニ四駆の作り方や改造の組み合わせについて話し合っていた。また、レースに勝つためのヒントを得ようと、スタッフに質問する等、大人と深く関わっていた。
- ・改造して作ったミニ四駆の工夫をお互いに話し合う姿が多く、交流の輪が広がっていた。
- ・自分で何度も試行錯誤をして改造したミニ四駆でレースに挑んだ。レースに負けて悔しい思いをした後には、他のお友達を一生懸命応援し、参加者全員の笑顔が絶えなかった。

### 《課題》

- ・各回の申込人数が定員の数倍であり、ミニ四駆作り・コース体験したい子どもたちのニーズがあることが分かった。多くの方にもものづくり体験の機会を提供するため、来年度も協力先と調整し、実施回数調整や抽選落選者を対象とした事業の実施を検討したい。
- ・事業の回数を増やすことで、協力先の工具の準備に負担を感じた。来年度も事業実施数を増やす予定であれば、今後も継続して連携が期待できることを踏まえ、工具の購入について、さらなる検討を要する。



工具の取り扱い方を説明



親子で作り方を考えながら制作



順番・ルールを守って何度も試走



スタッフに早く走らせるための  
改造のヒントを聞いている様子



お互いのミニ四駆の改造した  
工夫を紹介している様子



みんなで友達のミニ四駆を応援

(担当：事業推進係 福寄)